

第147回簿記検定試験

2級 出題の意図

[第1問]

(出題の意図)

本問では、与えられた取引の説明文をよく読み、冒頭に掲げた勘定科目群を参照して正しく仕訳を示せるかを問うています。なお、商工会議所簿記検定試験「商業簿記標準・許容勘定科目表」に目を通していた受験者であれば、問題文の取引を適切な勘定科目に結びつけるのがさらに容易であったはずです。

1. 本社の増設工事の完成により、建設仮勘定から適切な勘定科目への振替と、これに伴う旧建物の除却処理が正しく仕訳できるかがポイントです。
2. 外貨建て（ドル建て）の輸出取引について、事前に締結された為替予約により、適切に振当処理を行えるかどうかポイントです。
3. クレジット払いの売上の取消（返品）処理について、信販会社へのクレジット手数料と消費税の税抜き処理とを併せて仕訳できるかがポイントです。
4. ファイナンス・リース取引の借手側の会計処理について、利子込み法により、問題文の通りに第1回目のリース料の支払と残額の債務計上を合わせて、正しくリース資産の計上ができるかがポイントです。
5. 開発中のソフトウェアの完成により、償却対象の勘定科目への振替と契約に含まれる4年分の保守料の計上処理が正しく仕訳できるかがポイントです。

問題文をよく読み、取引の結果として、どのような資産又は負債の勘定科目の金額が変動するかを考え、また、その結果として収益又は費用が生ずるのか（生じない場合もある）を考えて、素直に仕訳を起こせるような基礎的な簿記の学習ができている受験者であれば、比較的容易に正答に到達できる問題でした。なお、最近改定された出題区分表の改定部分に関する出題も多く含まれていますが、公表されている「2級・新規論点に関するサンプル問題」に目を通していた受験者であれば、より正答に到達するのが容易であったはずです。

[第2問]

(出題の意図)

第2問は、会社の合併（吸収合併）と子会社株式、および連結会計を出題しました。合併と連結とは全く別個の論点として扱われることが多いのですが、ともに他の企業を傘下に収めるという点で、本質的には同じカテゴリーに属す

る取引になりますので、広い意味での企業結合に関する総合的理解を問いました。

連結会計については、今回が2級では最初の出題でしたので、基本的な事項に留めるとともに、連結修正仕訳のみを問いました。また、配点についても、合併や子会社株式の論点と組み合わせることにより、仮に連結会計に関する学習が進んでいなかったとしても合格に必要な点数を得られるように配慮しました。さらに、合併や子会社株式に関する出題に関しても、過去の出題実績やテキストなどで扱われている練習問題よりも簡易にするとともに、勘定科目等もあらかじめ示して答えやすいようにしました。

もともと、子会社株式は時価評価しないで取得原価をもって貸借対照表価額とすることをはじめ、3級で学んだ勘定記入や決算時における勘定の締め切り方など、基本的な知識をしっかりと身に付けているか否かによって簿記の実力がそのまま点数に反映されるよう心がけて出題しました。

[第3問]

(出題の意図)

本問は、問題用紙に示された決算整理前残高試算表、未処理事項および決算整理事項にかかわる資料に基づいて、答案用紙の損益計算書を完成させる問題です。財務諸表作成問題としては、基本的で標準的な問題であるといえます。

解答にあたってのポイントは4つあります。1つ目は、未処理事項にかかわる修正仕訳、決算整理事項にかかわる決算整理仕訳を正しく行うことができるかどうかです。2つ目は、決算整理前残高試算表に修正仕訳と決算整理仕訳の結果を正しく反映させることができるかどうかです。3つ目は、損益計算書に計上される勘定科目（収益および費用の勘定科目）を正しく選び出すことができるかどうかです。4つ目は、収益および費用の勘定科目とその金額を損益計算書に正しく区分表示できるかどうかです。

決算処理および区分損益計算書について基本的な理解ができていれば、十分に正答できる問題であると考えています。

[第4問]

(出題の意図)

本問は、「工場会計の独立」に関する問題です。本社と工場が離れていることなどの理由から、工場での会計を本社から分けて取引の記録をすることがあり、これが「工場会計の独立」です。ここで、本問では、材料費、労務費、製造間接費などの金額計算とそれに基づく仕訳を行うように求めています。それぞれの問題での金額の計算と、この金額による仕訳が理解できていることで正解と

なる問題です。

本問のような問題は、過去にも同様の出題があり、決して目新しい問題ではありません。基本的な「工場会計の独立」の問題であり、工場の会計を独立させた場合の費目ごとの金額計算とそれによる勘定科目を通じての仕訳について、基本的な理解が十分かどうかを見るための問題です。

[第5問]

(出題の意図)

標準原価計算を行って、仕掛品勘定と損益計算書を作成する問題です。標準原価計算は制度として認められた原価計算方式ですので、勘定にどのように組み込まれるのか、財務諸表の作成とどのように結びつくのかを理解しておくことが重要です。今回のような問題は標準原価計算としては基本的な論点といえます。

仕掛品勘定についてはパーシャル・プランによる作成を出題しましたが、シングル・プランも出題範囲ですのであわせて学習していきましょう。損益計算書では、売上原価部分が標準原価計算にもとづく計算になります。また、今回は営業利益までの作成が求められていますので、販売費・一般管理費は原価実績を集計し、損益計算書に計上します（販売費・一般管理費には標準原価計算は適用されません）。